

2 / 19

## 防災の備えを学び、 防災対策の必要性を再確認

～登別市市制施行45周年記念事業「登別市協働のまちづくりセミナー」～



▲基調講話を行った中村総括主査（右）と有村准教授（左）

2月19日（金）、市民会館で、登別市市制施行45周年記念事業「登別市協働のまちづくりセミナー」（市、登別市連合町内会主催）を開催しました。

同セミナーは、防災をテーマに災害に強いまちづくりなどを考え、協働のまちづくりの意識を醸成することを目的に2部構成で開催。市民や各町内会などの役員、市職員など、約450人が参加しました。

第1部では、岩手県陸前高田市防災局防災課の中村吉雄総括主査と、室蘭工業大学大学院工学研究科の有村幹治准教授を招き、防災と協働のまちづくりに関する基調講話を行いました。

中村総括主査は、大震災の経験から、防災力向上のためには日頃から地域の強いコミュニティ形成や地域間の連携が大切だと話し、有村准教授は、防災・減災のために、地域で役割分担を適切に行っていくことなどの必要性を呼び掛けました。

第2部では、防災をテーマに協働のまちづくりに関するパネルディスカッションも行われ、参加者は、主体的な行動を起こし、地域の防災力向上に取り組む重要性を再認識しました。



▲災害に強いまちづくりに向けて意見が交わされたパネルディスカッション



▲江戸時代に書かれた日誌など、古い資料を使って登別温泉やカルルス温泉について説明する藤本さん

## 地域で考える温泉熱利用

～のほりべつ地熱・温泉熱市民フォーラム～

2 / 19

2月19日（金）、婦人センターで『のほりべつ地熱・温泉熱市民フォーラム』（市、株道銀地域総合研究所主催）を開催し、北海道立総合研究機構地質研究所の元所長・藤本和徳さん、洞爺湖温泉利用協同組合の専務理事・四宮博さんに講演をしていただきました。

四宮さんは、洞爺湖温泉地域における地熱の開発や利用の取り組みを紹介し、「地域で考え、取り組み、活用することが重要」と述べました。市ではこれまで、市内企業や民間団体と連携して、温泉熱を利用した融雪システムの導入などを進めてきました。今後も、地域ぐるみで、温泉熱利用のさらなる可能性を探っていきます。

## エゾシカを知ろう

～平成27年度 婦人センター事業～

2 / 19

2月19日（金）、婦人センターで、平成27年度婦人センター事業「聞いて、食べて『エゾシカ』を知ろう」（市主催）を行いました。

この事業は、子育て中の女性を対象として、仕事と子育ての両立を目指す女性を支援することを目的に、女性が働くことに関する制度などを知っていただくとともに、ストレス発散や気分転換に効果のある講座を行うものです。

参加者は、女性就労支援の取り組みやエゾシカについての講話を聞いた後、エゾシカ肉の調理を体験しました。参加者の一人、中里絵里さんは「簡単に調理ができ、おいしかったので、今度は家で作りたいです」と話してくれました。



▲エゾシカ肉を調理する参加者